

令和4年度 IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）広場運営者募集
審査講評

令和4年3月25日に実施した令和4年度 IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）（以下「広場」という。）広場運営者選定会議の結果及び講評について、以下のとおり報告する。

I 選定スケジュール

(1)公募期間

令和4年2月25日（金）～3月22日（火）

(2)審査日

令和4年3月25日（金）

(3)審査結果通知

令和4年3月28日（月）

II 提案者数

2者

III 参加資格

2者とも、参加資格を満たしていた。

IV 候補者選定結果

提案者1 採用

提案者2 不採用

V 審査基準及び項目別講評

(1)審査基準

- ①事業のコンセプト・事業内容の提案（10点）
 - ②市民が訪れたい場とするための空間の提案（20点）
 - ・魅力的で開かれた店舗装飾等の工夫
 - ・使われやすい広場備品の配置等の工夫 など
 - ③市民が訪れたい場とするための運営の提案（40点）
 - ・魅力的な事業を行う仕組みの提案
 - ・広場で行われる持ち込み企画と相乗効果を生む体制づくりの提案、その実現性
 - ・「運営者の役割」における企画提案内容の独自性、実現性
 - ・コロナ禍において、感染者を発生させず事業を行う対策の提案 など
 - ④IBALAB@広場プロジェクトの趣旨を広く伝え、サポーターを増やす仕組みの提案（15点）
 - ・広場を訪れる人がまた来たいと思え、交流が生まれる工夫
 - ・広場をつかう人同士がつながり、相乗効果を生む工夫 など
 - ⑤これまで関わってきた企画実績等の評価（5点）
- ※評価点は、委員による審査点の合計 810 点（90 点× 9 委員）

(2)個別講評

■提案者 1

令和 2 年 10 月から運営されてきた運営者をメンバーに含む提案者 1 は、繋がり
の拡大、地域循環、ゼロウェイスト活動など、提案者として明確な目的を示しながら、
当募集要項に示す「運営者の役割」を満たす提案がなされていた。SDGs を取り入れ
たコンセプト「いば LOOP」についても好意的な意見が多かった。

「やってみたい」人のチャンスとするチャレンジショップの提案については、
衛生面やスケジュール管理など安定的な運営が肝となるが、公式ホームページを作成
して受付・相談窓口を設置することや、飲食店を営んでいる事業者がグループのな
かにいることで、実績や体制から見ても実現性が高いと評価された。また、事業の実
施を通して、来園者やプレイヤー同士のゆるやかなつながりを築いていく、一過性
のものとならないコミュニティづくりを丁寧に提案しているところも評価された。

そのほか、これまでの実績を踏まえた豊富な自主企画も評価されたほか、専任の
コーディネーターを 1 名置くという提案も、チャレンジショップの安定運営や、コミュ
ニティづくりの役割を果たせるのではと前向きに捉える意見があった。

■提案者2

広場の魅力向上には「人が集うコンテンツを年間でいくつ実施することができるか」が大事と考え、提案者がこれまでの活動により多くの属性の方々と関係を築いてきた強みを生かしながら、その繋がりを惜しみなく発揮する多彩（賑わいづくりだけでなく、福祉や教育、防災など）な自主企画や、多様性を受け入れる場づくりが特徴的な企画内容であり、評価する声が多かった。チャレンジショップの提案だけでなく、「学生の居場所」を運営してきたノウハウを生かした大学生を中心とした日替わり店主カフェ&バーを盛り込んだことについても、官学連携の活性化に期待するものとして評価された。

また、広場における空間提案においても、カフェのデザイン制作を経験豊富な先進事例のキーマンに協力を仰ぐなど、豊富な人脈が可能とする魅力的な提案であった。

一方、広場の日常的な運営が見えづらく、提案にあったチャレンジショップの現場フォローなどはどのように行うのか、体制づくりについての説明には若干欠けている印象であった。

VI 総評

まず、委託費や助成金などもなく、気候や市民イベントなどあらゆる要素に左右される広場の社会実験事業にもかかわらず、今年度も2者の市民及び市民グループからご応募いただいたことに本市として敬意を表すとともに、その熱意あるチャレンジに大変感謝するものである。

審査については、①これまでの広場運営と異なり、両者よりチャレンジショップや日替わり店主カフェの提案がなされていること、②運営に対するそれぞれの考え方（主にコンセプト）の違い、などが大きな特徴であり、その比較が主な視点となった。

まず、①については、それぞれ評価された点は先述のとおりであるが、参加の裾野を広げることはもちろん、参加者間の交流や連携など、広場を拠点としたコミュニティづくりの視点において、提案者1がより評価されていた。提案者2による学生の居場所・挑戦の場づくりに期待する意見も多く、多世代交流や産官学民の連携の考えについても記載されていたが、運営体制の具体性においてわずかに差がついたものと感じている。

次に②については、豊富な人脈を活かしてコンテンツをたくさん準備し、広場に関わる人口を増やすことで活性化に繋げるという提案者2の提案を評価する声が多かった一方、企画の一つ一つが独立しているように感じる、という意見や、市民による持ち込み企画との連携がイメージしにくい、といったマイナスな評価もみられた。

対して提案者1は、SDGsを基軸とした「茨木の循環の風景（roopscape）」を作り出す明確なコンセプトを提示した。また、市民の持ち込み企画との連携を促す情報共有を行うことや、提案者グループが主催するイベントでのお試し出店をサポートするなど、実施する自主企画やチャレンジショップはあくまで手段とし、そこから生まれるコミュニティの発展を最も重要と捉えた提案が、大変評価された。なお、委員採点結果についても、「事業のコンセプト、事業内容の提案」に最も差がついた。

以上のことから、最も高い得点を得た提案者1を事業実施予定者に、提案者2を次点者として選定するものであるが、IBALAB@広場への多様な参加によりさらに場の魅力が向上していくよう、イベントの主催や参加等、提案者2にとってもさまざまな挑戦の場となることを期待したい。

また、事業実施予定者として選定された提案者1においても、チャレンジショップの導入という広場にとって新たな展開が「育てる広場」の趣旨に沿ったものとして、参加の裾野を広げる取組となることに大いに期待している。取組をさらに補強する「専任コーディネーター」の提案についても、過年度の広場運営を見る限り負担の大きい内容と感じているが、広場運営において「現地で対応できる担当者がある」ことで広場のサービスが格段に向上すると思われるため、ぜひ設置を検討いただきたい。

新施設・広場「おにクル」の開館やその後の第二期整備に向けて、これからも日々試行錯誤が続くことが予想されるが、引き続きIBALAB@広場が「育てる広場」を体現する「社会実験の場」としてチャレンジを受容する環境を持ち続けることで、茨木らしい豊かな風景が醸成されていくことを期待している。